



学校だより

開校記念日特別号

大田区人権教育研究協力校

「みんながいる わたしがいる
さしのべる 生きている」

令和4年11月24日

大田区立糎谷中学校

校長 小島 宏一郎

自ら学び考えることができる生徒

感性豊かで思いやりのある生徒

心身ともに健康な生徒

開校記念日（11月24日）にちなんで ～祝 開校69周年～ 来年度は開校70周年です

< 校章の由来 >

稲穂の図案は、糎谷の地に由来しています。日本人の生命と、工業地帯としての生産発展と勤勉を象徴したものです。（下枠記事参照）

< 開校にあたって >

昭和28年、テレビ放送が始まった年の6月19日に、東蒲・羽田両中学校の校区変更により糎谷中学校の新設が決定し、小林俊之助校長が就任しました。当時、東蒲中と羽田中の一部の生徒は、教室が足りなかったため、東糎谷小学校で授業を受けていたそうです。

9月1日に仮の開校式が行われ、同日二部（夜間学級）が開設され羽田中学校内で授業が開始されました。生徒数27名でスタートしました。11月に校舎がおおむね完成し、11月24日、東蒲中と羽田中の2校から748名（1、2年生のみ）の生徒が糎谷中学校に編入しました。そして、現在の地で授業が始まったこの日を開校記念日としました。校章は、10月30日に決定し、当時のものが受け継がれてきています。

< 地域の方の支援 >

糎谷中学校は、地元有志の皆様のご協力、ご支援があつてはじめて開校できました。具体的には学校の土地や、施設・設備の点にいたるまでです。

また、当初糎谷中学校には体育館はなく、土地を所有していた13軒の皆様方のご協力があつて

現在の場所に体育館がつけられました。協力がなければ、校庭内に建設することになり、狭い校庭となっていたかもしれないからです。

< 開校前の状況 >

本校設立の計画が決定された当時は、糎谷中学校のある土地は、米軍の接収から解除されたばかりでした。また、戦争の傷跡が生々しく、家屋が点々と建てられ始めましたが、いたるところに草むらがある状況で、一面の荒野といった感じだったようです。

< 開校当時の教育目標 >

- 一 上品で礼儀正しい人
- 二 健康で明るい人
- 三 勤勉で責任を果たす人

< 二部（夜間学級） >

大田区は、戦後の社会的経済的な混乱期で、不就学者や長期欠席者が多かったため、その状況を憂慮して二部（夜間学級）を開設しました。

昭和28年6月の区立中学校の長期欠席生徒数は314名でした。そのうち、貧困で働いている者や家事手伝いをしているため登校できない者は、164名でした。糎谷中学校に開設した理由としては、戦災の影響が大きく、不就学者が海岸地域に多かったためと言われています。

開設当初は、150名を数えることもありましたが、以後は減少し、20数名から50数名の間で推移していたようです。

昭和51年5月には、二部専用の教室ができ、後に改築されて現在にいたっています。

校章の制定について

◇（生徒会誌に）校章を入れませんでしたので、校章の制定についての歴史を調べてみました。（昭和二十八年十二月発行糎谷中学生新聞一号より）

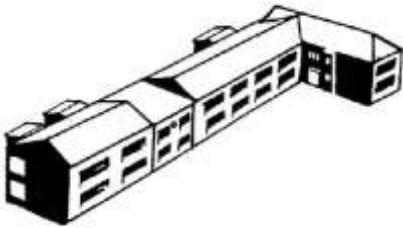
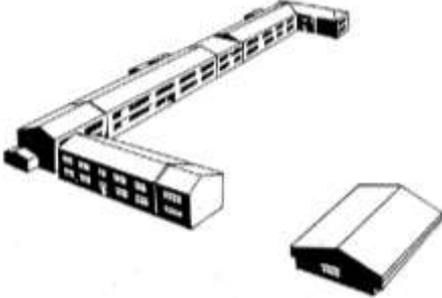
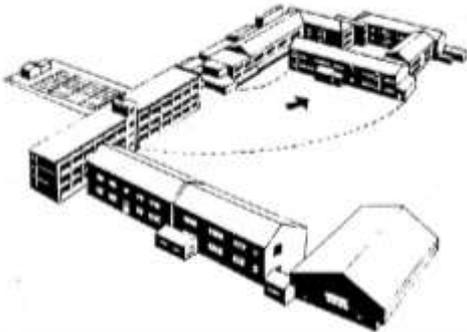
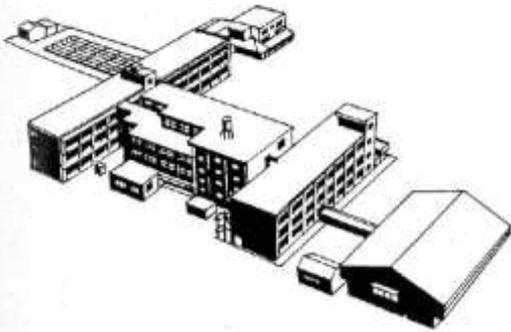
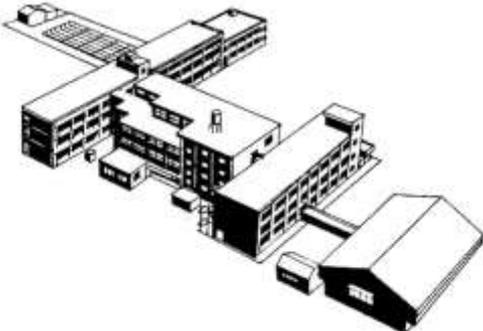
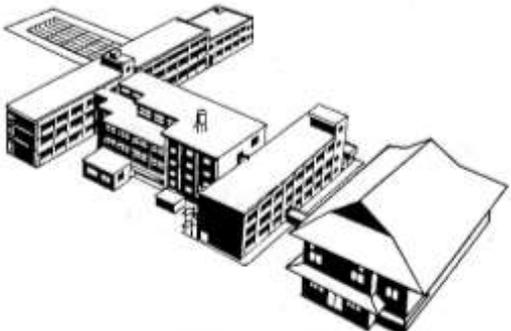
学校の開校迄に校章を決めようと、校長先生はじめ職員生徒、いろいろ図案を考案しました。何が糎谷という地名の由緒なのかを探索して、それに関連のあるものをいろいろと調査しましたが、結局それを明示することはできませんでした。それで地元の先輩の方々の話では、四、五十年前までは糎谷地区は、一面の田圃であったそうなので、糎の字にあやかかって米の花または麴の原料も米ということを連想し、さらに米は、我々日本人の生命の根源で非常に大事なものであるから、稲を配して考案しました。

（「生徒会『いなほ第一号』編集後記」昭和四十五年三月八日発行より）



開校当時の「学校要覧」と「生徒会誌いなほ第1号」の表紙

校舎のうつりかわり

<p>昭和28年度（開校当時）</p> 	<p>昭和33年度</p>  <p>体育館の完成</p>
<p>昭和46年度</p>  <p>北校舎（鉄筋）完成 （プールは昭和36年に完成）</p>	<p>昭和49年度</p>  <p>現在の校舎のほとんどが完成 木造校舎を取り壊す</p>
<p>昭和58年度</p>  <p>北校舎増築</p>	<p>平成5年度</p>  <p>現在の姿（体育館改築は平成3年）</p>



開校当初の木造校舎（昭和33年度卒業アルバムより）



中央校舎建設中の様子（開校20周年記念誌より）